

令和5年度 杉森高等学校 自己評価表(計画段階)

| 達成目標 | 具体的方策 | 評価 | 課題 |
|--|---|----|-------------------|
| 1 最重点目標 | | | |
| 明るく和やかな校風を醸成する 節度ある身だしなみができるようになる 生徒の基礎学力が身につくよう指導・支援を行う | 教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を実践する。 | △ | 教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行 |
| | 教師、生徒が一丸となって教育活動、学校生活を充実させる。 | ○ | |
| | 学年・学科が両輪となり、生徒指導部が統括することで指導方針・方法を統一する。 | ○ | |
| | 高校生らしい頭髪・服装を自ら考え、実践する力を育成する。 | ○ | |
| | 教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。 | ○ | |
| | ICTの活用など、新しい生活様式に応じた学習支援を工夫する。 | ○ | |
| | 授業時間数の確保に努める。 | ○ | |
| | 土曜日や7限目及び「基礎学力補充の取組」を活用して、学習習慣を身につける。 | ○ | |
| 2 杉森らしい校風の醸成 | | | |
| 明るく元気な学校を創る 地域に貢献し、地域に愛される学校を創る 伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る | 体育祭や文化祭などの学校行事を改善・充実させ帰属意識の向上を図る。 | ○ | 校歌斉唱の声を大きく |
| | 様々な学校行事、学科行事を通して、生徒の出番を作り、自己肯定感を高めさせる。 | ○ | |
| | 地域の活動に積極的に参加する。 | ○ | |
| | ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。 | △ | |
| | 本校の専門学科、コースの特色を生かした地域貢献を行う。 | ○ | |
| | 始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 | ○ | |
| | 本校の歴史、建学の精神を学ぶ機会をつくる。 | ○ | |
| 3 学力の向上 | | | |
| 丁寧な学習指導により学力が向上する 授業規律を守ることができる 達成感を感じ自信をつける | 分かりやすく効率的な授業を目指す。 | ○ | さらなる創意・工夫を行う。 |
| | アクティブラーニング等、生徒が自主的・能動的に活動する授業を目指す。 | ○ | |
| | 課外授業の充実を図る。 | △ | |
| | 授業開始時に服装を正させ机上を整理させる。 | ○ | |
| | 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 | ○ | |
| | 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。 | △ | |
| | 授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。 | ○ | |
| | 合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 | ○ | |
| | 観点別評価・意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。 | △ | |
| 4 生活規律の確立 | | | |
| 基本的な生活習慣を身につける 規範意識を身につける | 挨拶の励行、服装・容儀・頭髪を整えさせ、杉森生としての誇りを育む。 | ○ | 身だしなみの向上 |
| | TPOに応じた言葉遣いや立ち居振る舞いができるように指導を行う。 | ○ | |
| | 正しい身だしなみを整えるとともに規範意識の向上につなげる。 | △ | |
| | 学校内外においても校則や規定を遵守する意識を高める。 | ○ | |
| | 交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。 | △ | |

令和5年度 杉森高等学校 自己評価表(計画段階)

| 達成目標 | 具体的方策 | 評価 | 課題 |
|--|--|------------------|---------------------------------|
| 5 その他の教育活動の活性化 | | | |
| 人権意識を身につけ人権を大切に にする行動ができる | 全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切に する指導を行う。 教師が生徒を一人の人格として尊重した 対応をする。 | ○ △ | |
| 自らの進路目標につながる修学 意欲を継続する | 体系的な進路学習を行い具体的な進路目標 を実現できるように指導する。 個別の相談や指導の強化により年間の退学・ 転学者数を減少させる。 | ○ ○ | |
| 転退学防止に向けて、教育相談 の充実と教育的配慮により、本 校での学習継続を図る | 教育相談委員会を効果的に機能させ、「気 になる生徒」に対して早期に対応する。 専門教科、特に実習への不適応生徒に 対しての配慮や教育活動の弾力的な運用 を図る。 学習継続が困難な生徒に対しては、別室 学習、学習支援センター、NHK学園との 併修などの活用を図る。 転退学防止について、さらなる対策を 検討し、可能性を探る。 | ○ ○ ○ △ | これまで以上に緻密 に組織的に指導を 行っていく。 |
| クラブ活動を活性化する | クラブ活動の活性化を図る。(加入率70% を目指す。) 対外試合の予告や結果報告等に掲示板 を活用する。 | △ △ | |
| 生徒会活動を活性化する | 生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的 に行うことができるように指導する。 | ○ | |
| コロナ禍の中で、安全で充実し た学校生活を送る | 感染防止対策と保健指導に万全を期し、 安全で充実した学校生活を送らせる。 「新しい生活様式」に基づいた、清潔で 落ち着いた学校生活を送れるよう指導 する。 | ○ ○ | |
| 6 各学科の活性化 | | | |
| (全学科をとおして) | 実習や技能の習得のに工夫・改善を凝らし、 資格取得、進路保証を確実にする。 | ○ | さらなる創意・工夫を 行う。 |
| (食物科) | 食の大切さを理解し、食文化の担い手 としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。 | ◎ △ | |
| (看護科・看護専攻科) | 感性豊かな看護の心を育て、医療の現場 の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員を 合格させる。 | ○ △ | |
| (福祉科) | 感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場 の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員 を合格させる。 | ◎ △ | |
| (普通科) | ファッションや医療技術への関心を高め 進学・就職に対する強い意欲を持たせる。 豊かな感性を育むとともに、進学・就職 に対応できるよう学力を高める。 | ○ ○ | |
| 7 広報活動の活性化 | | | |
| 中学校や地域への発信を確実に 行う | 中学校向け発行物やホームページをと おして教育活動を発信する。 WEB活用を推進し、中学生の利便性を 向上させる。 中学校との信頼関係を構築することが できるように中学校訪問時の持参資料 や提供情報を工夫する。 地域の小学校とも連携を図り、広く 本校を知ってもらう。 | ○ △ △ ○ | 志願者増を図る。 |